

Ⅵ 研究の結果

◇ 国語

(1) 事前、事後のアンケート(資料3)の結果の比較(児童数39)

① 国語の勉強は、他の勉強と比べて好きですか。

- イ、とても好きです。
- ロ、どちらかというとき好きです。
- ハ、どちらかというとききらいです。
- ニ、とてもきらいです。

この結果をまとめると次の表のようになる。

例えば、表中の※欄の数字4は、事前の調査でロと回答し、事後の調査ではハと回答をしたもの数である。また、縦の計の欄の数字22は、事前の調査でロと回答した児童の数である。横の計の欄の数字10は、事後の調査でハと回答した児童の数である。また、事前の調査でロと回答した22名の児童のうち、事後の調査では、イと回答したものが4名、ロと回答したものが14名、ハと回答したものが4名いることがわかる。

前	後	イ	ロ	ハ	ニ	計
イ		4				4
ロ		4	14	※ 4		22
ハ			6	6		12
ニ					1	1
計		8	20	10	1	39

上の表からは、事前、事後の結果について、著しい変化を認めることはできなかった。

上の表で、イ、ロをまとめて好き：1で表し、ハ、ニをまとめてきらい：0で表してこれを整理し直し(以下の結果についても同様のことを行う)、下の表のような2×2分割表をつくる。

前	後	1	0	計
1		22	4	26
0		6	7	13
計		28	11	39

前後の変化の検定を行うと、「教師のための統計入門」・福島県教育センター P119参照)

$$\chi^2 = 0.1, \chi^2(1, 0.05) = 3.84$$

$$\therefore \chi^2 < \chi^2(1, 0.05)$$

よって、危険率5%で前後の結果に変化は認められない。

② 国語の勉強をするのは楽しいですか。

- イ、とても楽しい
- ロ、どちらかというとき楽しい
- ハ、どちらかというとき楽しくない
- ニ、とても楽しくない

前	後	イ	ロ	ハ	ニ	計
イ		7	5			12
ロ		6	9	4		19
ハ			5	2		7
ニ					1	1
計		13	19	6	1	39

上の表からつくった2×2分割は次のとおりである。

前	後	1	0	計
1		27	4	31
0		5	3	8
計		32	7	39

前後の変化の検定の結果は、危険率5%で変化は認められない。

③ 国語の勉強はやさしいですか。

- イ、とてもやさしい
- ロ、どちらかというときやさしい
- ハ、どちらかというときむずかしい
- ニ、とてもむずかしい

前	後	イ	ロ	ハ	ニ	計
イ		1				1
ロ		3	16	1		20
ハ			8	9		17
ニ				1		1
計		4	24	11	0	39